



「二人の裸婦」制作年不明 油彩、キャンバス 41.0×52.8cm

峰村リツ子展

人の裸を描くことは
ありのまま
とらわれない自由を
呼吸すること



「モデルを描く」制作年不明 油彩、キャンバス60.6×50.1cm

2013年5月30日(木)～6月30日(日)9時～21時 月曜休館

会場:砂丘館ギャラリー(蔵)＋一階全室

*一階和室会場は市民利用等で見学できない場合があります。

主催/砂丘館

ギャラリートーク●6月22日(土)15時～16時30分

お話:荒木いづみ(峰村リツ子四女)、聞き手:大倉宏(砂丘館館長)

参加料:500円(予約不要、直接会場へ)

砂丘館



砂丘館美術館

post card



砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

指定管理者

新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

入館無料／9:00～21:00 休館日／月曜日 〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1 tel./fax.025-222-2676 sakyukan@bz03.plala.or.jp

私たちは砂丘館の
自主事業を
応援しています。

新潟日産自動車株式会社

やぐちあられ株式会社

NSGグループ

加島屋

株式会社ナレッジライフ

新潟ビルサービス

丸屋本店
創業明治11年

郷土の文化に親しむ会

吉田 綾子(新潟市連合婦人会)



峰村リツ子(1907-95)は明治の新潟市・沼垂に生まれました。自立した生き方を求めて東京に行き、里見勝蔵、野口弥太郎らの薫陶を受けて、1930年協会展、二科展、独立美術展などに出品を重ねて注目されます。戦後は一時自由美術家協会展、女流画家協会展に出品しますが、その後は個展での発表を主としました。昭和30年代からニューヨークにしばしば滞在。人種の入り混じった町の自由な空気に解き放たれたものがあつたのでしょうか、筆づかいや色彩が、目に見えてのびやかになっていきます。さまざまな人が集まるヌードのデッサン会に通い、いろいろな肌の色をした数多くのヌードの絵を残します。年を経るごとに紙やキャンパスの上の裸の人々は、より自由に、「ありのまま」の体であることを喜び、歌うかのように、のびのびとした表情をみせるようになりました。明るい笑いも時に誘う、おおらかなヌードの数々に、雰囲気をも的確にとらえた肖像、ユーモラスな静物、色の美しい風景などを加えた約50点の油彩画による、故郷新潟での、没後18年目の初の遺作展になります。

同時期開催 峰村リツ子展 ドローイングと油彩

2013年6月22日(土)～30日(日)11:00～18:00(最終日～17:00)

新潟絵屋 新潟市中央区上大川前通10番町1864

TEL&FAX 025-222-6888 info@niigata-eya.jp

会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。●新潟駅からのバス:西循環(12・12A系統)又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分